

2024年度内定者  
内定体験記

林野庁

## はじめに

本資料は、林野庁への入庁を希望する皆様へ参考にしていただくために、2024年度林野庁一般職大卒内定者（2025年度新規採用者）から、勉強方法や採用面接対策、志望理由等を聞き取り、取りまとめた「内定体験記」です。

体験記は、大学等で林学関係を専攻していた方、他分野から林学を独学で受験された方、そして行政を受験された方の3つに分類しました。

体験記からわかるように、林野庁の内定者は様々な分野の学問に励みながら、多様な志を抱きつつ、それぞれに適した方法で試験に臨んでいます。また、林野庁でも同様に、多様な人材を求めています。

試験・面接対策に正解はありません。対策に励む中で不安になった時、先輩たちが工夫を凝らしている姿や奮闘する姿を参考にいただければ幸いです。

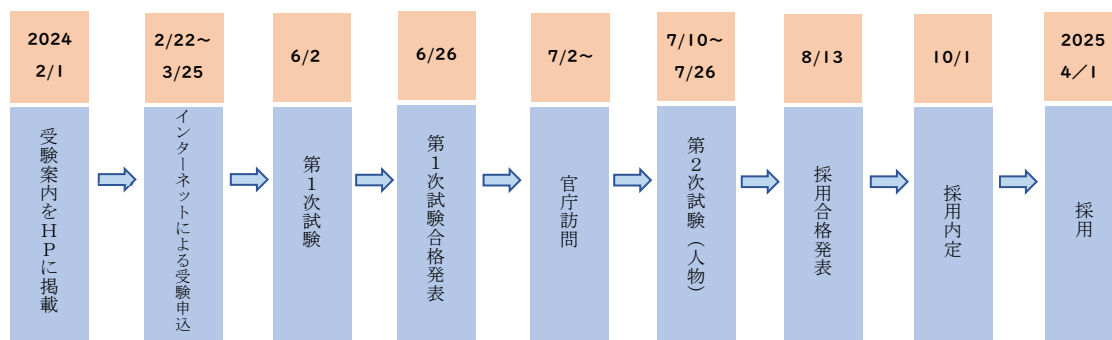
## 一般職試験（大卒程度）について

採用までに2つのプロセスがあります。1つ目は人事院が行う国家公務員試験で、2つ目は各府省庁で行う官庁訪問等の採用活動です。これらに通過することで晴れて国家公務員として採用されます。林野庁の官庁訪問は、職場の雰囲気を感じてもらうだけでなく、入庁するに当たっての疑問を解決する場としても設けており、その後に採用面接を行います。

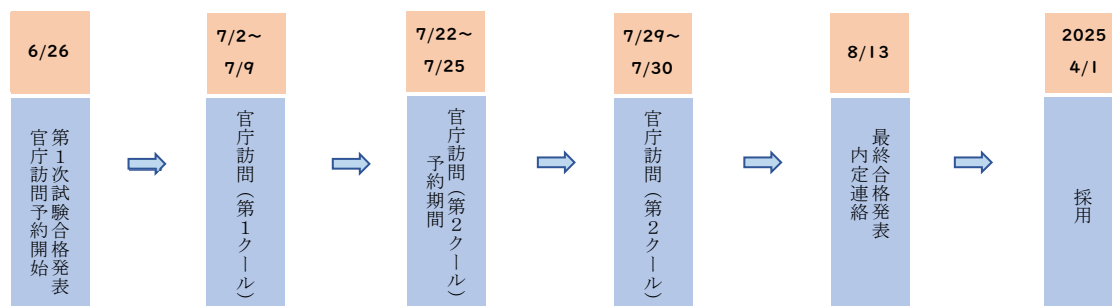
※技術系区分は林野庁本庁でのみ官庁訪問を実施します。行政区分の官庁訪問先は、本庁または森林管理局のいずれかご都合のよい場所を選べます。

（官庁訪問当日の流れは訪問先によって若干異なります）

2024年度試験日程（参考：「人事院国家公務員試験採用情報NAV I」より）



2024年度林野庁官庁訪問日程（参考）



学年	修士2年	試験区分	林学
専攻	森林資源化学	併願先	県庁

### 1次試験の勉強方法

基礎能力試験	<p>大学のTACのweb教材で対策しました。学部のうち、まずは問題数が多いとされる数的処理、数的推理、文章理解を中心にまずは1周回して問題慣れすることを目指しました。大学1年から数的処理、数的推理を中心に基礎を、試験1年前からは本格的に2周目以上を繰り返しました。</p> <p>時事対策は、試験2か月前から「速攻の時事」を使い、空き時間に見るようにして対策しました。</p>
専門試験・専門記述試験	<p>最初に最新年度の過去問を解きました。初めは正答率30%以下でも、気を落とさず、まずは完璧になるまで解きなおし(回答暗記)をしました。</p> <p>森林学科に在学していたため、普段の講義を大切にすることで、基礎的な専門知識を習得しました。また、研究室での研究が、化学的な専門知識の習得に繋がりました。</p> <p>参考資料は、『森林・林業白書』(1. キーワード, 専門用語をマーカー 2. 目次を見て説明できるようにする 3. 後ろのグラフ・資料から説明できるようにして内容理解する) 『森林・林業実務必携』(過去問で出た単語を調べる辞書的な役割。キーワード, 専門用語をマーカーして内容説明できれば良しとした)を利用しました。</p>

### 官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点

官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	<p>和気あいあいとした雰囲気でした。その雰囲気に合わせて、現職者から全国各地の現場の話の話を聞きました。現職者との会話を楽しむことで、自分の将来像をイメージするいい機会になりました。</p> <p>礼儀、作法に気を付けながらも、自分らしさを見せるように心がけました。ネガティブな内容でも、ポジティブに捉えて受け答えができると良いと思います。</p>
採用面接	<p>学んできた森林の専門知識を、何に活かしていくのか、業務に対する取り組み方を意識して受け答えするようにしました。</p> <p>教授との会話や学会参加、大学内の特別講義での質疑応答へ積極的に関わるなど、本には書いていない生の声を直接聞く機会を得ることで対策としました。</p> <p>公務員のOB・OGだけでなく、民間企業の人も意見交換するなど、様々な森林業界の方々とは話すことで課題の認識と、森林業界の視野を広げました。</p>
面接カード(履歴書)の書き方	<p>長所、短所、ガクチカ、研究内容のすべてに通して一貫性を持てるようなストーリーをつくることを心がけました。</p> <p>面接は、面接カードの中から質問されるため、面接で話したいことをイメージして書くことを意識しました。</p> <p>提出前には、学内の就職指導課にて面接カードの確認をしてもらい、客観的な視点で修正してもらいました。</p>

林野庁に決めた理由	<p>大学、大学院において森林資源について学んだことを活かせる職種に就職したいということが一番の動機でした。研究内容に関連する木質バイオマスを中心とした木材利用の促進に携われるのが林野庁でした。</p> <p>また、森林業界を第一線でけん引する民間企業を、多岐に渡って携わり、サポートすることができる仕事に魅力を感じました。</p> <p>説明会やインターンシップを通して、森林課題改善への意識が高い方々が多いと感じ、熱量を持った方々と仕事ができるという期待感から林野庁に決めました。</p>
-----------	--

後輩へのアドバイス	<p>就活を楽しむことが一番大事です。面接は現職者の生の声を聴ける最大のチャンスだと思い、学ぶ最高の機会だと思うことで緊張を乗り越えられると思います。</p> <p>また、まずは合格点である足切りを超えることを意識し、その後目標点を意識していくことが重要になります。範囲が広いので、100点ばかりを意識せず、自分に自信がある分野から勉強するなど、最低限合格するために、必要な点数の稼ぎ方を意識することをおすすめします。</p>
-----------	---

学年	修士2年	試験区分	林学
専攻	水圏植物生態学	併願先	環境省、県庁

### 1次試験の勉強方法

基礎能力試験	過去問10年分と参考書で対策しました。はじめに、過去問を1年分解き、出題範囲や苦手分野を把握しました。数学系の分野に関しては、公務員試験特有の問題もあったため、参考書で解き方を習得しました。その後、過去問を繰り返し解きました。私は、国語と英語、数学を全問正解することを目標とし、その他の分野は一切勉強しませんでした。
専門試験・専門記述試験	総合職と一般職の過去問各5年分で対策しました。専門択一式試験は、すべての選択肢において誤っている記述を正すことで、本番でも誤りを見つけられるように練習しました。その際、森林・林業白書と森林・林業実務必携、インターネットの情報を参考にしました。専門記述試験は、過去問での出題内容を中心に森林・林業白書を読み込み、森林・林業の現状への理解を深めました。

### 官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点

官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	10:00集合、15:00頃解散でした。流れとしては、面談15分、事前面談15分、採用面接15分といった感じでした。はじめの面談では職員2名とお話し、業務説明や逆質問等を通して業務内容への理解を深めることができました。また、事前面談では採用面接の際の不安点を相談させていただき、落ち着いて本番に臨むことができました。待ち時間は、若手職員の方々や他の志願者の方々とお話し、有意義に過ごすことができました。
採用面接	面接官は4名でした。面接カードに沿った質問が大半でした。はじめに志望動機と入庁後に携わりたい業務を聞かれました。その後、研究内容や課外活動、志望順位等について、順々に質問されました。終始穏やかな雰囲気、言葉に詰まってしまった際も気長に話を聞いていただき、落ち着いて話すことができました。自身の想いを伝えたいという意志を示すことが重要と感じました。
面接カード(履歴書)の書き方	面接カードはExcelに記入する方式でした。研究内容に関しては、私の専門分野は林学とは離れたものであったため、専門外の方でも理解しやすいような内容を心がけました。また、志望動機に関しては、現在の森林・林業の課題についての認識と今後どのように取り組みたいかを、その考えに至った経緯とともに伝えることが重要と感じました。

林野庁に決めた理由	幼少期から自然が好きで、自然に関わる職に就きたいと漠然と考えていました。全国各地の土砂災害や鳥獣被害を見聞きする中で、森林環境の整備を通して国民の安全・安心な生活を支えたいと考え、林野庁を志望しました。官庁訪問の際に林野庁職員の方々とお話する中で、庁内の穏やかな雰囲気に魅了され、入庁を決めました。
-----------	---

後輩へのアドバイス	公務員試験を受験する中で、試験日程から逆算して余裕のある計画を立てることが大切であると感じました。特に、官庁訪問の面接カードは面接の質に直結するため、早めに関し始めて時間をかけて練り上げることをおすすめします。また、インターンシップや業務説明会には、業務内容や雰囲気を知らずとも積極的に参加すべきと感じました。就職活動中は不安や焦りを感じることも多々あると思いますが、公務員試験は長期戦ですので、適度に息抜きをしながら頑張ってください。
-----------	--



学年	専門学校2年	試験区分	林学
専攻	林業系	併願先	道庁

### 1次試験の勉強方法

基礎能力試験	日々の授業や実習、資格試験の勉強、自分の趣味などで忙しく、勉強時間があまり取れなかったため、学校の授業を大切にしました。判断推理・数的推理・資料解釈・国語・社会科学については学校の授業があったので授業中に理解できるようにしました。家庭学習としては、苦手だった社会科学を中心に1冊の参考書を仕上げました。全ての科目を勉強することは難しいので、出題範囲の広い数学や社会を中心に勉強したり、自分の得意・不得意を見極めて不得意な部分を重点的におさえたりすると良いと思います。
専門試験・専門記述試験	専門試験については過去問をひたすら解き、復習するのが良いと思います。間違えた問題や大事なポイントは『森林・林業白書』にマーカーし、理解するということを繰り返しました。同じ参考書を繰り返し何度も開いて読んでいると頭にインプットしやすいです。専門記述試験については、『森林・林業白書』の重要そうな箇所を読み込み、ネットも活用しながら理解を深め、対策をしました。

### 官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点

官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	控室では先輩職員の方々が話しかけてくださり、業務内容や職場環境のことなど様々なお話を聞くことができました。和やかな雰囲気をつくってくださったことで緊張感もほぐれました。事前面談については、入庁後において気になること、採用面接で不安なことなど親身になって聞いてくださり自信を持って採用面接に臨むことができました。余談ですが、お昼に庁舎内にある食堂でご飯を食べました。とても美味しかったです。
採用面接	面接官は4人で、主に面接カードに書いた内容について質問されました。聞かれたことに素直に、そして自信を持って、相手に伝えることを心がけました。面接対策としては、自己分析に時間をあてるのが大事であると思います。今まで自分がしてきたことを思い出し、どんなきっかけで取り組んだのか、その時どんな気持ちだったのか、どんなことが得られたのか、などを振り返っておくと良いと思います。
面接カード(履歴書)の書き方	志望動機については、特に「なぜ林野庁に志望したのか」ということが伝わるように詳しく丁寧に書きました。今まで力を入れて取り組んできたことや自己PRの記載については、自己を振り返っておくのが大事です。また、学校の先生に確認していただいた時に、自身では気が付かなかった自分の経験、長所を知ることができたため、一度書いてみた面接カードを他の人に見てもらおうと良いと思います。

林野庁に決めた理由	自然の力を癒す力の凄さに気付いてから、自然の中で働いてみたいと思うようになりました。学校では樹木についての基礎知識から、山に入って森林調査などをするといった実践的な学びまで得ることができ、もともと人々の役に立つ仕事がしたいという思いもあったことから公務員を目指すことに決めました。インターンシップに参加させていただいたことで、国有林の管理・保全を通して社会に貢献できることに魅力を感じ、林野庁への志望を決意しました。
-----------	--

後輩へのアドバイス	私が大切だと考えているのは、自信を持つこと、相手を信頼することです。受験期間中は合格や入庁後について不安を感じる場面があるかもしれませんが、ですが今まで自分が取り組んできたことに自信を持って、相手を信じて伝えたい気持ちを届けてきてください。筆記試験、官庁訪問、人事院の面接、と長丁場になるかと思いますが、体調には気を付けて受験に臨んでください。頑張ってください、応援しています！
-----------	---

学年	学士4年	試験区分	林学
専攻	水圏資源生物学	併願先	県庁

1次試験の勉強方法	
基礎能力試験	大学三年生の夏頃から、大学の紹介する公務員講座とテキストを用いて勉強を始めました。基礎能力試験はとにかく範囲が広く、特に数的処理には苦手意識をぬぐえない分野も多くありました。なので、本番では苦手分野はすぐに飛ばして得意分野に時間を割き、確実に点を取ることを意識しました。
専門試験・専門記述試験	5年分の林学の過去問を解き、解説をまとめたノートを作りました。主に森林・林業白書と森林・林業実務必携の2冊を参考書として活用しました。記述試験では、林学の試験勉強のほか、県庁のインターンシップで見聞きした体験や、県庁へ就職した研究室の先輩とお話させていただいたことで得た知識が助けになりました。

官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点	
官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	面接前には受験者同士とお話する機会が設けられており、緊張をほぐすことが出来ました。また、先輩職員の方々にお話や質問できる機会もあり、仕事の経験談・やりがいから残業時間や給与のことなど、かなり突っ込んだ内容までお話してくださいました。あらかじめ気になること、質問したいことをリストアップしておくこと、面接練習にもなっていると思います。
採用面接	面接官は4人、15分程度の面接でした。面接は終始提出した面接カードに沿って行われるので、当日までに自身の面接カードをよく読みなおしておくのが一番だと思います。また、私は友人や進路相談室の先生に面接練習に付き合ってくださいました。様々な人と練習しておくこと、その分様々な質問にも対応できるようになるため、練習できる機会をたくさん作ることがおすすめです。
面接カード(履歴書)の書き方	面接カードは研究室の仲間や教授にも確認・添削していただき、読みやすい文章になっているか再三確認致しました。早めに書き上げておくことでより読みやすい文章に推敲できるので、期間に余裕をもって取り掛かるとよいと思います。

林野庁に決めた理由	私は、幼いころから自然の中で過ごすことが好きで、その好きが高じて森林を取り巻く環境問題にも関心を持つようになりました。人々の安全・生活のために欠かせない森林の保全や、その森林を支える林業に貢献したいという思いから、林野庁を志望しました。
-----------	--

後輩へのアドバイス	私は大学で水圏資源生物学を専攻しており、当時は森林・林業と直接的な関係がないことを不安に思っていました。しかし、面接ではそのことに関してあまり深くは追及されませんでした。後から知ったことですが、職員のなかにも大学の研究分野が森林・林業関係以外の方はそう珍しくないそうです。もし、同じような不安を持つ方がいるのなら、あまり不安がらないでください。
-----------	--

学年	修士2年	試験区分	林学
専攻	森林生態学	併願先	県庁

### 1次試験の勉強方法

基礎能力試験	公務員試験の勉強を始めたのが1ヶ月前だったこともあり特に対策はしませんでした。試験本番では時間配分に気を付けて問題を解きました。5分以上悩みそうな問題に時間をかけても仕方がないのでとりあえず2分は考えて、それでも分かりそうになかったらとぼして、長めにとった見直しの時間にじっくり考えて解きました。
専門試験・専門記述試験	林学過去問3年分を使用し対策しました。「森林・林業白書」「森林・林業実務必携」と、それでも分からないところはインターネットで調べて、印刷した過去問に解説をすべて書き込み常にかいて繰り返し読んでいました。過去問を解くのに時間がかかったため、試験勉強を始めるのが遅かった私は3年分しか解きませんでした。余裕があれば5年分は解ければいいと思います。専門記述試験は「森林・林業白書」の内容をしっかりと把握できていれば問題ないと思います。

### 官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点

官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	官庁訪問は1日目の10時から行いました。採用面接開始の12時半までに2回の個別面談がありましたが、そこでお話した内容はその後の採用面接にとっても役に立ちましたので質問内容は事前に考えた方がいいと思います。待ち時間は3,4時間ほどでしたが、その間は皆さん用意されたお菓子を食ったり、他の官庁訪問者とお喋りをしたり面接対策をしたりと各々の時間を過ごされていて、全く硬い雰囲気ではありませんでした。
採用面接	採用面接は15分程度で面接官は4人でした。事前に想定される質問内容をメモしておき、待ち時間を利用して一通り答えられるようにしました。面接カードに書いた内容をいかに林野庁に対する熱意につなげることができるか考えておくのがポイントだと思います。面接では笑顔と適切な声量や目線を意識し、言葉が詰まっても日本語が変でも面接官の方々はしっかり耳を傾けてくださるので、落ち着いて思いを伝えることができれば大丈夫だと思います。
面接カード(履歴書)の書き方	短い文章で端的に熱意や人柄が伝わるような文章になるよう意識して書きました。書きながらこの部分はこう質問してくるかもしれないとイメージしながら書くと、同時に面接への対策になるかもしれません。面接カードは官庁訪問の予約と同時に提出が求められるので早めに書き始めた方がいいです。

林野庁に決めた理由	大学受験生の時に、たまたま職業に関する本で森林官という仕事があることを知り、自然が好きだったこともあり「森林官になりたい」となんとなく意識していました。それをきっかけに大学は森林について学べる学科を選択し、森林における多面的な機能やそれにつながる我々の役割などについて学んだことでその思いが強くなり、林野庁を志望しました。併願先として県庁も志望していましたが、仕事内容と官庁訪問時の林野庁の方々の人柄が決め手となりました。
-----------	---

後輩へのアドバイス	公務員試験は長い戦いとなるので、試験や官庁訪問のスケジュールとその流れを完全に把握しておき、「いつ、何をするのか」を明確にすることが一番重要だと思います。特に官庁訪問の予約は忘れがちな気がします。第一志望官庁へ1日目の午前中に訪問したい場合は予約開始の日時を忘れないようにしましょう。林野庁の内定体験記はもちろんですが、他省庁の体験記も参考になりますので確認しておいていいと思います。研究や併願先の就職活動もあり大変だと思いますが、あらゆる方向からの情報収集は忘れずに頑張ってください！
-----------	---

学年	学士4年	試験区分	林学
専攻	森林水文・砂防学	併願先	なし

### 1次試験の勉強方法

基礎能力試験	過去問を三周ほど解き、時事問題の対策本は直前に軽く目を通しました。英文を読解する練習として過去問にこだわらず、インターネット上の英語の短編小説や論文に毎日目を通すように心がけました。過去問を解くときはできるだけ短時間で要所を掴み、本番に見直しの時間を多く設けられるように意識しました。
専門試験・専門記述試験	森林・林業白書と森林・林業実務必携を繰り返し読み、まとめノートを作成しました。過去問は誤っている選択肢の間違い部分を自分なりに訂正しながら解き、間違えた問題や複数年に共通していた問題の要点を中心にノートへ追記しました。記述試験に関しては白書で特集やトピックスとして紹介されている話題を自分の言葉で説明する練習を少ししましたが、基本的には択一問題の勉強で充分であるように感じました。

### 官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点

官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	待ち時間は長かったのですが、待合室で同じテーブルについていた方々とお話することができたのであまり緊張することなく待機することができました。二度の事前面談では自身の疑問点を解消しつつ楽しく会話するぐらいの心積もりでおりました。実際には楽しく面接の直前対策ができ、採用面接の際までに自分の考えをうまくまとめられた状態にすることができました。
採用面接	初めは緊張しましたが、面接官の方々が大きくうなずきながら話を聞いてくださったため落ち着いて答えることができました。質問は面接カードにそって行われました。面接対策として、面接カードに書いた内容を掘り下げたエピソードを一度文章に起こし、どの項目をどのように質問されても対応できるようにしていました。
面接カード(履歴書)の書き方	できるだけ簡潔に書くことを意識して書きました。書き込める文字数の関係で省略する部分は質問された際に的確に答えられるところを選びました。そのようにしておくことで、質問される内容の目処が付きやすく落ち着いて面接に臨めるかと思います。

林野庁に決めた理由	幼い頃から自然が好きで、漠然と「自然に関わる仕事に就きたい」と長い間考えておりました。大学で植物や砂防学について学ぶようになり、森林管理を通して国土保全へ貢献したいという思いが強くなりました。国土保全の要である国有林の管理に携わることで自身の夢を叶えられると考え、林野庁に決めました。
-----------	--

後輩へのアドバイス	面接対策に関しては対策本や自分の面接カードと睨めっこしてただけで、面接練習自体は一切しませんでした。その分うまく話すことができるか不安もありましたが、自分の考えをまとめることができていたので問題なく面接に臨むことができました。事前準備はかなり大切ですが、当日はあまり深く考えすぎず楽しむという心持ちでいくとリラックスでき良いのではないかと思います。
-----------	--



学年	修士2年	試験区分	林学
専攻	生命システム科学	併願先	環境省、地方上級

### 1次試験の勉強方法

基礎能力試験	最初に過去問を解き、傾向や自分の得意、苦手分野を知り、時間配分や目標得点を決めました。数的、判断推理を中心に、解けるようになるまで繰り返し問題に取り組み、解法を覚えました。直前期には時事問題の対策をしました。試験当日は時間配分に注意し、確実に得点できる問題に時間をかけ、わからないものは飛ばし次々と解き進めていきました。
専門試験・専門記述試験	これまで林学を学んだことがありませんでした。そこで、過去問の選択肢すべてどこが間違っているのか調べながら学びました。森林・林業白書と森林・林業実務必携を中心に、その他わからないことはネットで調べていました。これまでに出题された部分を何度も読み返し、覚えました。文章のみでわかりづらい部分は、写真や図解でイメージできるようにしました。

### 官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点

官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	待合室はとても和やかな雰囲気でした。テーブルにお菓子や飲み物を用意してくださっており、他の受験者と話しながら過ごしていました。待合室で職員の方と話せる機会があり、業務内容や面白いエピソードを伺うことができました。事前面談では2人の職員の方に質問することができ、採用面接前に疑問を解消できました。
採用面接	4人の面接官の方それぞれから、面接カードに沿った質問を2つ程度されました。面接時間は15分程度でした。面接官の方は、笑顔で相槌を打ちながら、話を聞いてくださったので、落ち着いて質問に答えることができました。面接は場慣れもあるので、緊張した状態でも簡潔にわかりやすく伝えられるよう練習を繰り返すとよいと思います。
面接カード(履歴書)の書き方	文字数制限があり、あまり多く書くことはできないため、深掘りしてほしい部分を簡潔にまとめるように意識しました。これまで学んできたことが異分野の方であっても、素直に頑張ってきたことを書けばよいと思います。分かりやすく、伝わるように話せれば、面接官の方は興味を持って聞いてくださると思います。

林野庁に決めた理由	小さい頃から自然が好きで、よく山登りや自然観察会に参加していました。これらの経験から、森林の重要性を知り、後世にも残していきたいと思うようになりました。この思いを実現し、森林でできる貴重な体験や重要性を伝えることができると考え志望しました。また、職員の方々の人柄にも惹かれました。
-----------	--

後輩へのアドバイス	説明会や職員の方に会える機会があれば、参加するとよいと思います。私自身、興味を持った時期が冬と遅かったのですが、職員の方のお話を伺うことで、働く姿のイメージを持つことができました。この時期にはインターンシップ等、終了しており、どうしようか悩んでいましたが、職員の方のご厚意、友人、キャリアアドバイザーの支援で、お会いする機会をいただきました。1人試験対策をする時間も必要ですが、人との関わりを大切に、就職活動に挑んでいただければと思います。
-----------	--

学年	学士4年	試験区分	林学
専攻	健康心理学	併願先	森林総合研究所、県庁、環境省

### 1次試験の勉強方法

基礎能力試験	<p>数的推理・判断推理は時間を測りながら過去問500を3周程度解き、間違えた問題にはチェックを入れて再度解きなおしていました。文章理解は毎日数問解き、TOEICの勉強を並行して行いました。時事は2月以降空いた時間に『速攻の時事』を読んでいました。</p>
専門試験・専門記述試験	<p>学部3年の10月ごろから独学で勉強を始めました。人事院の開示請求で5年分の過去問を入手し、解きながら『森林・林業実務必携』『森林・林業白書』を参考にノートにまとめました。イメージが難しい林業機械や実務はインターネットや『図解知識ゼロからの林業入門』、実務必携だけではどうしてもわからなかった砂防工学は『新砂防工学』を利用しました。総合職森林・自然環境区分の過去問は分野別に問題が書いてあるため、こちらも用いると問題のジャンルが把握しやすくなります。</p>

### 官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点

官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	<p>官庁訪問といえば殺伐としたものだという先入観がありました。終始和やかな雰囲気でした。官庁訪問では、関心ある分野の職員の方2人の話を伺うことができ、業務に対する理解が深まりました。空き時間にも、数名の職員が業務の話をしてくださいました。採用面接以外は採用と無関係だと明言されていたこと、職場訪問を行い人事担当職員と言葉を交わした経験があったことなどから、程よく緊張しながらもリラックスして話すことができました。</p>
採用面接	<p>面接は15分程度の短いもので、ほぼ面接カードに沿って行われ、特に困るような質問はされませんでした。卒論の内容や、勉強していて大変だった林学の分野などが聞かれました。面接官の目を見ながら会話のキャッチボールを行うこと、正直に話すことを意識しました。面接官の方も、私の言葉にこやかに反応を返してくださったり、共感してくださったりと、厳かながら和やかに進んだと思います。</p>
面接カード(履歴書)の書き方	<p>特に結論から書くこと、内容に一貫性をもたせることを意識しました。「なぜまったく異なる専攻から林学区分を受けて林野庁に官庁訪問をしているのか」が伝わるよう、面接カードの各項目に林野庁の業務に関連しそうなエピソードを絡めて記載しました。熱意が伝わるよう、文字サイズを小さくして長々と書いてしまいましたが、もう少し簡潔に書いてもよかったかもしれません。</p>

林野庁に決めた理由	<p>部活動の影響で、GISを活用する授業や森林に関連する授業などの履修をいくつか行い、GISや山地災害、生き物などへの関心が高まっていました。そんな折、職場訪問で林野庁の方から話を伺ったことで、林野庁では森林や林業に対して幅広い内容を扱えることを知りました。そこで、やりたいことが全てできるのは林野庁かもしれないと感じ、志望しました。フィールドで働くことができる点や、国家公務員の中でも特に地域の方との距離が近いという点も魅力に感じました。</p>
-----------	---

後輩へのアドバイス	<p>専門外から独学で林学区分を目指す方は毎年少なからずいるので、安心して挑戦してほしいと思います。いろいろなことに取り組みながら、自分がやりたいことを少しずつ見つけてください。また、公務員試験では、長期間の筆記試験勉強・面接対策の中で不安を感じることが多いかもしれません。そのようなとき、諦めたくなる気持ちが最大の敵です。同じ志望を持つ友人や仲間を見つけることや、民間企業への併願を考えるなど、不安を少しでも減らす工夫が重要だと思います。</p>
-----------	--

学年	学士4年	試験区分	林学
専攻	自然地理学	併願先	林野庁総合職、県庁、市役所

### 1次試験の勉強方法

基礎能力試験	大学の学内講座に教養だけ申し込みましたが、国家公務員の場合、知識がないのであまり意味がなかった気がします。それよりは市販のテキストを何周かしたほうが無駄がないと思います。ちなみにLECのテキストはめっちゃめっちゃ難しいのでやらなくて大丈夫です。試験の難易度は総合職と一般職であまり変わらないので、練習がてら総合職の試験を受けるのもおすすめです。
専門試験・専門記述試験	専門外からの受験だったので、とりあえず過去問を取り寄せました。初見でもある程度常識で解ける問題が多く、基準点は超えていたと思います。また、過去問と似たような問題が出るので過去問を回すだけで合格点はとれるようになります。記述試験に関しては、それ用の対策をするというよりは、専門試験の延長で自然に解けるようになると思います。

### 官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点

官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	各テーブル5人ずつで和気あいあいとした雰囲気でした。周りの熱量の高さに驚かされましたが、この人たちと一緒に働きたいと素直に思いました。途中若手職員との座談会があったので何かしら質問を考えておくといいです。ここで後ろ向きな発言をしたとしてもマイナス評価になることはないと思います。
採用面接	採用面接は面接カードに沿って広く浅く聞かれました。志望動機ややりたい仕事などの話もあり、インターンシップに行っておいてよかったなと思いました。卒論について根掘り葉掘り聞かれるのは技術職ならではのようです。特に面接官と専攻分野がかぶっていた場合はある程度突っ込んだ質問は覚悟しておいたほうがいいです。
面接カード(履歴書)の書き方	大学の就職キャリアセンターの人に添削してもらいました。専門外の人だからこそ素朴な疑問をぶつけてくれることが多く、参考になりました。ただ、ストーリーとしてきれいにまとめた分、若干ウソっぽくなってしまったので、なにもかも鵜呑みにするのはよくないです。

林野庁に決めた理由	インターンシップが素直に楽しかったからです。文系出身者でも活躍できると知り、決めました。高校の部活をきっかけに今でも趣味で登山を続けており、また大学では自然地理を学んでいることから将来も森林というフィールドで働きたいと思いました。
-----------	---

後輩へのアドバイス	独学で林学をやったというと感心されることが多いですが、正直行政8科目やるより絶対楽だと思います。文系で迷っている方は林学で受験することを強く勧めます。問題は併願先ですが、自分の地元の県庁と市役所は行政の教養型で受験できました。総合職も試験の難易度はさして変わらないので力試しで受けるのもありだと思います。
-----------	--

学年	学士4年	試験区分	行政
専攻	刑事政策	併願先	県庁、国税専門官、裁判所事務官
官庁訪問先	林野庁本庁		

### 1次試験の勉強方法

基礎能力試験	3年生の夏から公務員講座を受講していました。時間がとれない時は、講義動画を視聴して内容がわからないところを解消するようにしていました。数的処理は慣れるまでに時間がかかりましたが、苦手な問題を繰り返し解きました。その他の科目は配られたテキストに加えて、高校で使っていた教科書やノートを見返していました。試験の雰囲気を掴むために、模試も何度か受けました。
専門試験・専門記述試験	経済原論が苦手だったので、足を引っ張らない程度に得点できるよう、かなり丁寧に勉強しました。模試の解き直しが一番効果的でした。法律科目はとにかく問題を繰り返し解いていました。間違えたらテキストを読むようにもしていました。得点源にするつもりで勉強していたので、苦手科目の次に時間を割きました。

### 官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点

官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	事前面談を2回した後に採用面接でした。その他に、控室で職員の方とお話しさせていただくタイミングが何回かありました。採用面接以外は疑問解消のためにこちらから質問することもできました。どの職員の方も穏やかで話しやすい雰囲気だったので、緊張しすぎず官庁訪問を終えることができました。
採用面接	面接カードに沿った内容で15分ほど行われました。深掘りした質問もありましたが、答えづらいものはほとんどありませんでした。カードの内容を覚え、関連した話題にも答えられるよう練習をしていたので、対策としてはそれで良かったと思います。緊張しながらも自然体でいられるよう心がけていました。
面接カード(履歴書)の書き方	修正がしやすいのでExcelで書きました。事前面談や採用面接で使われるため、官庁訪問の一日のベースになる大事な資料だと思います。私は文系出身で専門知識がない分、大好きな自然のために働きたいという率直な思いを志望動機として書きました。あとはできる限り業務について調べ、自分なりにわかったことの中からどう働きたいかを書きました。

林野庁に決めた理由	文系出身でも自然に携わることができる貴重な職場だからです。世界自然遺産に関わったり、島で働くこともできたり、業務内容が他では体験できないことばかりで、自然が好きな私にとってはとても魅力的だと思いました。また、大学で学んだ法律知識が役に立てそうだったのも決め手の一つです。
-----------	---

後輩へのアドバイス	私は文系出身で専門知識がなく、林野庁のことを知ったのも3年生の2月の説明会で、インターンシップにも参加できませんでした。他の受験者に比べたら要素が弱いだろうと思っていたので、とにかく熱意を伝えることに力を入れていました。私に似たような状況の方は、面接カードの添削や面接対策を念入りに行うことをおすすめします。
-----------	--



学年	既卒	試験区分	行政
専攻	法学	併願先	無し
官庁訪問先	林野庁本庁		

### 1次試験の勉強方法

基礎能力試験	最初に過去問を解いてみて、文章理解の点数がかなり取れていたため、文章理解の勉強はせずに、正答率の悪かった数的処理に絞って勉強を行いました。 勉強方法は、市販の問題集を購入し、その問題集に乗っている問題を解くのではなく、問題を見たらすぐに答えを見て、解答までのプロセスを理解し、暗記するために何周も読み込むという方法を取り、なるべく1問1問にかかる時間を減らし、勉強時間を少なくするための工夫をしていました。
専門試験・専門記述試験	科目選択に関しては、選択できる16科目を過去問でチェックしてみて、自分が勉強していて苦にならなそうな科目を8つ選択しました。 勉強方法は、市販の問題集を購入し、問題を見て、すぐに解答を読み、それでも理解できない場合には、他の参考書やYouTubeの解説動画等を参考にして解答を理解するようにしていました。また、法学等は頻出の分野があるため、その分野を重点的に勉強するようにしていました。

### 官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点

官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	官庁訪問は、午前中に集合して、昼休みを経て午後までありました。 採用面接の前に事前面談が2回行われ、どのような仕事がしてみたいかや勤務希望地などについて聞かれました。また、自分が疑問に思っていることや不安なことなどを質問して、答えてもらいました。 事前面談やその待機時間は終始なごやかな雰囲気、面談や面接の待ち時間の途中で、先輩職員の方々への質問コーナーなども設けられていました。
採用面接	事前面談よりは緊張感のある雰囲気でしたが、一般的な採用面接といった感じでした。面接カードの内容に沿って質問がされるため、面接カードの内容をしっかりと確認しておくのが大切だと思います。
面接カード(履歴書)の書き方	面接カードはエクセルで入力する形式だったため、文章を長くしすぎて、エクセルの枠からはみ出さないように簡潔にまとめるように注意して書きました。 面接カードに沿って採用面接が行われるため、しっかりと内容を確認することが大切だと思います。自分は、大学を卒業してから時間が経っていたため、大学で学んだことについての項目は、大学で勉強したことを復習しながら記載しました。

林野庁に決めた理由	大学時代に、登山部に所属しており、山に登ることや自然が好きだったため、この素晴らしい日本の自然を直接守るための仕事がしたいと思ったことがきっかけです。 林野庁は、行政区分で採用されたとしても、技術系の仕事を行うことができ、森林に直接触れ合う機会が多いということが、大きな決め手となりました。
-----------	--

後輩へのアドバイス	私は、地方公務員として仕事をしながら国家公務員試験を受験しました。仕事や学校と公務員試験の勉強を両立することは非常に大変だとは思いますが、自分なりに時間を作る工夫をして、勉強時間を確保することが大切だと思います。 諦めそうになったときには、公務員になりたいと思ったきっかけを思い出して、挫けずに頑張ってみてください。これを読んでくれた方に良い結果が訪れることを願っています。
-----------	--

学年	学士4年	試験区分	行政
専攻	社会保障法	併願先	県庁、市役所、民間企業
官庁訪問先	森林管理局		

### 1次試験の勉強方法

基礎能力試験	準備期間が短かったため、配点の高い分野を中心に学習しました。特に苦手だった数的処理は、『解法の玉手箱』を何周か解いた後に過去問等で演習を行いました。玉手箱は問題を解く過程を非常に丁寧に解説しているもので、とにかく数学が苦手だという人におすすめです。時事対策は最新の『速攻の時事』が出てから行いましたが、併願先のことを考えるともう少し早くから手を付けた方が良かったと思います。
専門試験・専門記述試験	公務員講座をとっていませんでしたので、配点の高い憲法、民法、行政法、ミクロ、マクロを中心に独学で勉強しました。法律は大学で学んだのでテキストは読まず、とにかく問題を解いて丸ごと覚えめました。苦手な経済分野は『最初でつまづかない経済学』で勉強しました。理屈を理解すべきところ、深く考えず丸暗記したほうが良いところまで書かれていますのでおすすめです。政治学、行政学などは暗記科目で範囲も狭いので後から対策しても大丈夫だと思います。

### 官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点

官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	本庁ではなく森林管理局での面接だったためか、1人で官庁訪問を行いました。管理局内を案内していただいたあと業務等についての説明、質疑応答の時間が設けられ、面接へと進みました。1人での参加で最初こそ緊張しましたが、職員の皆さんの温かい雰囲気ののおかげでリラックスでき、たくさん質問ができたので良かったです。今後官庁訪問に参加される方も、質問は多めに考えておくとよいと思います。
採用面接	面接は30分程度で、面接官4人、書記1人対私1人で行われました。基本的には面接カードに沿って話が進められましたが、これまでの森林とのかかわりや「もし～のようなことが起きたらどうするか」など別視点からの質問もあったので、事前の面接練習はしておいた方がよいと思います。とはいえ面接自体は穏やかな雰囲気、面接官も時折うなずきながら丁寧に話を聞いてくださるので、対策したうえで落ち着いて臨めば大丈夫です。
面接カード(履歴書)の書き方	私は職場訪問やインターンへの参加経験がなく、記入欄が空欄であることが不安でした。しかしそれでも内定をいただけたので、同様の方も安心してください。それよりも志望理由、やりたい業務、配属希望先に対する理由を一つの枠に記入するので、これらに一貫性を持たせ分かりやすく書くことが大切だと思います。また、自由記載枠で自分の強みをどう生かすか、自信をもってアピールしましょう！

林野庁に決めた理由	幼いころから森林に囲まれて育ったので、今後も自然と共に生活しながら、自然のために働きたいと思ったからです。また専門的になりがちな国家公務員の中では珍しく、治山事業や森林環境教育など幅広い方面の業務に携わることができる点にも魅力を感じました。当初は専門的な林業知識がないこと、山に踏み入った豊富な経験がないことから迷いを感じていましたが、手厚い研修制度や総務系キャリアパスの創設が決定打となり林野庁に決めました。
-----------	---

後輩へのアドバイス	公務員の就活はとても長いです。誰かに話を聞いてもらったり、遊びの予定やおいしいおやつで気分転換したりしながら乗り切りましょう。また、安心材料を持っておくことも大切です。勉強中、「もしどこにも合格しなかったらどうしよう」と不安になってしまうこともあるかと思いますが。そんなとき早期選考を実施している企業や自治体の内定があれば、「少なくとも行き先はあるから大丈夫」と安心できます。内定や面接経験は自信にもつながるので、本命以外にかけける時間も絶対に無駄にはなりません。自分を信じて頑張ってください！
-----------	---

学年	学士4年	試験区分	行政
専攻	地域政策	併願先	市役所、県庁
官庁訪問先	森林管理局		

### 1次試験の勉強方法

基礎能力試験	学習範囲が膨大なため、最初に過去問を徹底的に解いて試験傾向を掴むことから始めました。特に出題頻度の高い「数的処理」「判断推理」「時事問題」を重点的に学習しました。数的処理や判断推理は苦手意識を感じやすい科目ですが、基礎能力試験の得点源になりやすい分野なので、問題集や参考書を使って解答スピードと正確さを高めることを心掛けました。過去問や模試で時間を計りながら取り組むことで、本番に近い環境で実力を磨くことができたと思います。時事問題は、ニュースや行政系の情報サイトを日常的にチェックしておくことが大切だと思います。ニュースアプリや新聞の見出しを目にすることで、自然に時事問題に対する理解が深められたと思います。
専門試験・専門記述試験	専門試験の対策では、「行政法」「政治学」「経済学」などの行政分野に特化した科目を徹底的に勉強しました。試験範囲が広く、学ぶべき内容が膨大だったため、計画的に進めることが特に重要でした。単に理論を暗記するだけでなく、日本の経済・社会システムとの関連性を意識しながら学習することが求められるため、実際の政策や社会問題をニュースなどで確認しつつ進めるよう心掛けました。

### 官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点

官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	初日の午後に官庁訪問を行いました。私以外の参加者は三名とあまり多くなかったので、担当者の方との説明や質問の時間をたくさん確保していただけただけのほか、他の参加者の方ともリラックスしてお話できたと思います。また、面談までの待ち時間にはみんなで「ZORING」という林野庁発のカードゲームを楽しんだりして和やかに過ごすことが出来ました。
採用面接	面接は受験者1人に対して3人の面接官との質疑応答でした。ほとんどの内容は面接カードに記述した内容を基に聞かれたので、あらかじめ想定問答を作っておくと良いかもしれません。その中でも、あくまで面接官の方々との対話であることを忘れずに話すことを重視しました。面接官の方々はいずれもにこやかで話しやすい雰囲気を作ってくれていたため、緊張せずにお話することが出来ました。
面接カード(履歴書)の書き方	面接カードに記述した内容を基に質問がされるので、結論からわかりやすく書くことを心掛けました。家族や友人に一度読んでもらって添削をしたり、誤字脱字の有無に注意して、誇張せずにありのままの自分を記述すると当日の受け答えはスムーズに行えると思います。

林野庁に決めた理由	漠然と行政職を志望していた私が、林野庁への就職を決めた大きな理由は、自然豊かな環境の中で実際に現場に関わる仕事ができるという点に強く魅力を感じたからです。行政職の中には、デスクワークが中心の職種が多くありますが、林野庁では森林保全や管理、災害対策、地域振興など、現場での活動が重視される職務が数多くあります。自然と向き合い、その息吹や四季の変化を感じながら仕事ができるという点に大きなやりがいを見出しました。
-----------	--

後輩へのアドバイス	公務員試験に臨むにあたり、学習範囲の広さや民間企業との採用スケジュールの違い、数多くの面接など不安は尽きないかと思われます。面接は特に緊張してしまうという方も多いと思いますが、私が出会った林野庁の採用担当の方々には朗らかで話しやすい雰囲気をつくってくださり、緊張せずに自然体で臨むことができました。試験に向き合うことが辛い時期もあるかと思いますが、面接に関してはあまり思い詰めず、しっかり準備しつつ、どうか自分らしさを大切に試験に挑んでください。
-----------	---

学年	学士4年	試験区分	行政
専攻	行政法	併願先	特別区Ⅰ類、地方上級
官庁訪問先	森林管理局		

### 1次試験の勉強方法

基礎能力試験	<p>数的処理と文章理解を中心に勉強しました。文章理解は得意だったため、高得点を取れるよう英語と現代文を一日一題ずつ解きました。数的処理は苦手意識がありましたが、基本的な解法を暗記してどのような形式の問題でも対応できるようにしました。また、間違えた問題は、解説を見ながらなぜ間違えたのかを把握し、次同じ問題が出た時には間違えないように気を付けました。基礎能力試験は、回答時間が短いので、一問一問に時間をかけ過ぎず得意科目に注力するなど、時間配分を意識しました。</p>
専門試験・専門記述試験	<p>憲法、民法、行政法、ミクロ経済学、マクロ経済学、政治学、行政学、社会学を勉強しました。法律科目と学系科目は、過去問題集を使い、暗記するとともに出題傾向の把握を行いました。経済学は特に苦手だったのですが、「最初でつまづかない経済学」という参考書を活用したことで、より公式の意味や原理を理解することが出来ました。また、どうしても覚えられない分野については、メモに書きだして洗面所の壁に貼り、毎日見ることで覚えるようにしました。</p>

### 官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点

官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	<p>最終合格発表後に官庁訪問の機会を設けていただき、13:50に集合し40分間の業務説明と20分間の採用面接を行って解散でした。インターンシップや説明会に参加していなかったため不安でしたが、業務説明をしていただいたことで仕事内容や職場・職員の雰囲気をよく知ることが出来ました。職員の方々の雰囲気が非常に穏やかだったため、リラックスして官庁訪問を終えることが出来ました。</p>
採用面接	<p>面接官4人と受験生1人で行われました。面接カードの内容に沿って志望動機ややりたい仕事等の質問がされました。終始穏やかな雰囲気であったため緊張を和らげることができ、森林管理局で働きたいという思いを自分の言葉で伝えることが出来ました。対策としては、通っていた公務員試験予備校の友人と一緒に面接練習を行い、面接カードの深堀りや突発質問にも対応できるようにしました。</p>
面接カード(履歴書)の書き方	<p>Exelで入力したものを事前にメールで提出しました。結論から書き、簡潔な表現を用いることで、読みやすく分かりやすい内容にするよう心掛けました。また、記入内容には全体的に一貫性を持たせることで、より説得力のある文章を作るよう意識しました。</p>

林野庁に決めた理由	<p>大学のゼミ活動で、東日本大震災で被災された現地住民のお話を聞く機会があり、防災・減災に強い関心を抱いていました。官庁について調べる中で森林管理局の存在を知り、国有林野の管理経営を通じて自然環境の保全や災害対策など、様々な面から国民を支えることが出来る点に魅力を感じました。さらに、国家公務員でありながら現場で仕事出来ることや、官庁訪問で感じた職員の方々の温かい雰囲気に惹かれ、入庁を決意しました。</p>
-----------	---

後輩へのアドバイス	<p>日々の試験対策お疲れ様です。公務員試験は最終合格までの道のりが長く、周囲が民間企業での就活を終える姿を見て、精神的につらい思いをすることが多いと思います。しかし、努力した分合格できた時の喜びは大きく、努力を継続できた経験は今後の人生において大きな財産となります。まずは公務員を目指す決めた自分をほめてあげて、つらい時は周りの信頼できる人を積極的に頼ってください。応援しています！</p>
-----------	--

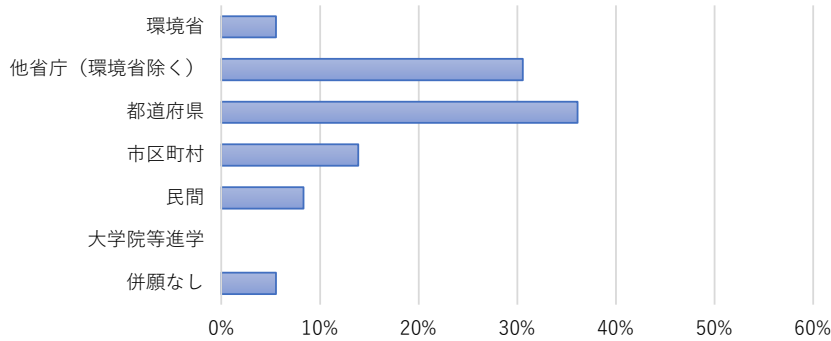


(付録) 2024年度一般職（大卒程度）内定者の採用関連データ

併願先

※内定者のうち回答があった者のみの集計データです。

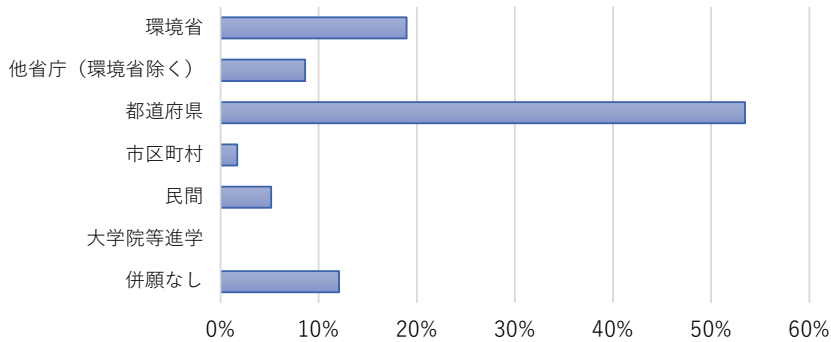
併願状況（行政区分）



他省庁、都道府県に対しては3割を超える方が併願しています。

技術系区分の方に比べると幅広く併願をしている方が多く、全体的に公務員志望が多い傾向にあります。

併願状況（技術系区分）

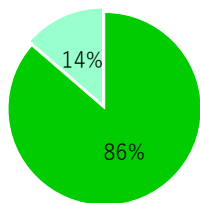


全体の半数超が都道府県庁、2割近くの方が環境省に併願しています。

ただ、行政区分の方と比べ、環境省以外の他省庁へ併願している方は多くありません。

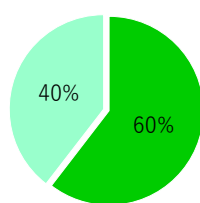
業務説明会の参加状況

試験区分：行政



■ 参加経験あり □ 参加経験なし

試験区分：技術系



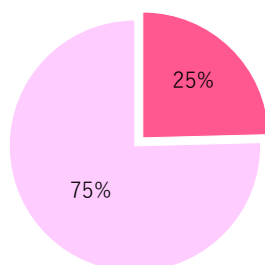
■ 参加経験あり □ 参加経験なし

人事院や大学、林野庁等主催で行われている業務説明会は、参加が必須ではなく、もちろん、選考に影響もありません。

しかし、林野庁について職員から直接話を聞ける機会ですので、是非積極的にご参加ください。

インターンシップの参加状況

内定者全体



■ 参加経験あり  
□ 参加経験なし

インターンシップに参加していない内定者が多いですが、実際に職場の業務を体験することができる貴重な機会です。各森林管理局署で実施していますので、是非ご参加ください。

みなさんの参加を心よりお待ちしております。



人材育成



森林整備



木材利用



災害対策



山村振興



国際協力



木材生産



環境教育



特用林産物



鳥獣害対策